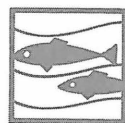


欧州でもっとも

有名な日本人芸術家・北斎

稲賀 繁 美

いなが・しげみ（国際日本文化研究センター教授）一九五七年、東京生まれ。八八年、テオドル・デュレに関する博士論文をパリ第七大学に提出。サントリー学芸賞、洪沢クロード賞特別賞、倫雅美術奨励賞、和辻哲郎文化賞他を受賞。著書『絵画の黄昏』『絵画の東洋』他。



フィリップ・ビュルテイー（一八三〇—一九〇）は『北斎漫画』について文章を残した最初のフランス人批評家のひとり。北斎は、優美さにおいてヴァトーに、力強さにおいてドーミエに、奇想においてゴヤに、そして躍動感においてはドラクロワに匹敵する、という賛辞を呈している。主題の豊富さと筆捌きの見事さでは、北斎に比べるのは、ただペーター・パウル・ルーベンスのみ。そうしたいささか大げさな評価は、ビュルテイーの著書『工業芸術の傑作』（二八六六）の一節に見える評価。それがどうした、と訝しがる向きもあるが、ここに共和派の美術批評家ビュルテイーの戦略性を見落としてはなるまい。ナポレオン三世治下に、金融資本主義が発達した第二帝政の末期にあつて、ガンベッタ周辺に位置したこの若き共和派の闘士は、工業芸術の育成を国家事業として推奨し、それによって既存の帝政派美術界に殴りこみをかけよう——との野望を燃やし

ていた。美術アカデミー正会員と美術学校教授が中心となつて官展サロンを牛耳る体制。これに対して異議申し立てをするための手段として、ビュルテイーの着目したのが、極東から登場したひとりの絵師、すなわち木版印刷という複製工業芸術に携わる町の職人だった。一介の職人を敢えて西洋美術史を代表する巨匠と引き比べる。そこには体制転覆の意図すら隠されていた。

一八六七年のパリ万国博覧会には、幕府名代として徳川昭武ら一行が派遣され、当時一三歳の東洋のプリンスは、絵入り新聞にも取り上げられ、話題を占む。博覧会に取材した報告書『芸術を競い合う諸国』（二八六八）で、もうひとりの批評家エルネスト・シェノー（一八三三—一九〇）は再び『北斎漫画』に注目し、「あらゆる美德や悪徳、あけつひろげと乱暴さが、悪戯っぽく、皮肉で哲学的な微笑を覗かせているが、そこにはいかなる怨恨も含まれてはいな

い」といった観察を残す。シェノーは『北斎漫画』の特質として四点を指摘する。まずそれが百科事典的な性格を宿すこと。つぎに一般民衆の生活が描かれていること。第三に諧謔かいぎやく混じりだが鋭く、即興の描写であること。最後に複製芸術として技術が単純でありながら高品質であること。これらはいずれも、ほんの数年前にテオフィール・ゴーチエ（一八一—一七二）やシャルル・ボードレール（一八二一—一六七）が声援を送った、版画・腐蝕銅版画協会の趣意書に謳うたわれた価値観に通じる特質だった。いわば当時の欧州で求められていた、創作版画の理想を体現した作品が、突如極東から供給されたというに等しい。

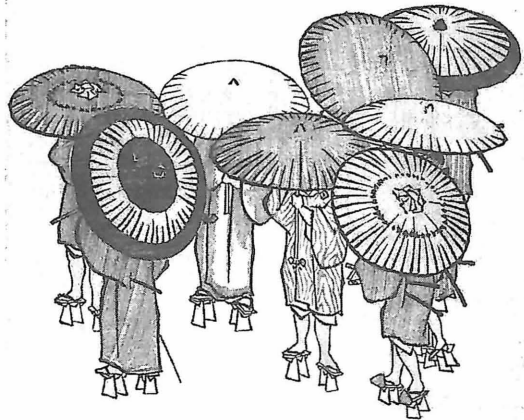
とはいえ、当時のフランスにおける北斎理解は、まだ至って初歩的な段階だった。その好例が、写実主義の立役者で、画家ギユスターヴ・クールベ（一八一—一七九）の初期の擁護者として知られたシャンフルリー（一八二—一八九）だろう。一八六九年に彼が刊行した『猫大全』には、『五〇年ほど前に死んだ日本の^{けしはす}格外な芸術家』によって描かれた、と称する猫の絵の複製が採録されている。作家自らも、日本の画家を模範に、猫に扮ふんした戯画の自画像を掲げている。だが、取り上げられたのは国芳の「猫の百面相」北斎と国芳の区別もつかぬばかりか、北斎を実際より三〇年ほど早く葬り去ってしまったことになる。

このシャンフルリーの著作の広告として、エドゥアール・マネ（一八三—一八三）が描いた石版画に『猫のランデヴー』が知られる。即興にして諧謔、単純な技術による民衆生活の活写といった日本経由の価値観が、パリの屋根の上で密会に及ぶ白黒の猫に託して描かれる。登場する黒猫が、かの有名な《オランピア》（一八六四）から抜け出てきた牡猫おすだったことも、当時の事情通なら一目みて理解したことだろう。『北斎漫画』の模写も残すマネは、数年後の普法戦争からパリ・コミューン（一八七〇—一七二）のうちに、戦場となった市内に留まった。その時期の腐蝕銅版画《肉屋での行列》は、傘が乱立する雨の日の情景、『北斎漫画』初編の《雨傘》の応用であることは、まず明白といつてよいだろう。

パリを巻き込んだこの市民戦争に際して、マネは万一の場合に備えて遺書を認ためているが、その遺言執行人に指定されたテオドール・デュレ（一八三八—一九二七）は、直後世界一周の旅に出かけ、日本にも立ち寄っている。大和郡山で住民から狎ちんを一匹譲り受けたデュレは、この犬をパリに持ち帰る。タマすなわち「宝石」と名づけられた愛玩動物は、マネや印象派の画家たちの人気者になったというが、マネもタマの写生を油彩と石版画に残している。日本の画家に倣って、引き直しの利かない墨筆を頼りに、即興

で動物の動きを捉えようとするマネの意思が、いささかきこえない筆跡からも、如実に伝わってくるようだ。

実は、ここに登場したデュレという人物が、フランスで最初の学術的な体裁の北斎論を執筆する人物となる。近年惜しまれつつ廃刊となった『ガゼット・デ・ボザール』誌に一八八二年に二度にわたって掲載された「日本美術、絵入り本―画帳―北斎」には、『北斎漫画』に触れて、「即興で描き直しの利かない描写」といった記述が見える。これは、



図版上：エドゥアール・マネ《肉屋での行列》 1871年
(エッチング・紙 兵庫県立美術館所蔵)

図版下：葛飾北斎『北斎漫画』初編より《雨傘》

事実というよりも、デュレの思い込み、先入観に過ぎまい。とはいえこの教条が、マネや印象派の、仕上げを無視した即興の制作ぶりを正当化する、理論的後ろ盾となった。誤解が招いた思わぬ効用だが、この事実は、無視できない。「画面にわずか数センチの大きさの人物が、上から下まで、西洋の透視画法など無視して、でんに配列されている」とデュレは観察してみせる。これまた、構図が下手で、制作があまりに無計

東京堂出版

『平家物語』を知る 事典

日下 力編

『平家物語』のあらすじ、名場面、登場人物などを解説。平曲「横笛」CD付。定価2940円

古代エジプトを知る事典

吉村作治編著

古代エジプトの国土・歴史・宗教・ファラオ・ミイラ・戦争・教育・スポーツなどを紹介する。定価2625円

最新ニュース英語辞典

デイリーヨミウリ編

政治・経済・文化・国際・安全保障・科学技術などから主要な用語を解説。定価2730円

平安朝の雅楽

遠藤 徹著 わが国雅楽の最盛期である平安時代の雅楽を構造と歴史の両面から解明する。定価16800円

手作り クローズアップマジック

荒井晋一著 テーブルの上で行なわれるマジックを難易度の順で紹介。20作品を収める。定価1890円

びっтарりの香りを選ぶ アロマテラピーガイド

苑田みほ著 個人の好み、心身の状態に合わせた、相性のよい香りのレシビを紹介する。定価1995円

ファッションクリエイションのひみつ

大島幸治著 実技重視の従来のテキストとは違ったデザイナーの創造力を養うための書。定価2310円

ファッションの記憶

伊豆原月絵著 60～70年代にシネマや街の中で出会ったファッションの記憶をたどるおしゃれ探し。定価2520円
(価格は税込)

〒101 東京都千代田区神田
-0051 神保町1-17

TEL 03-3233-3741
FAX 03-3233-3746

画と批判されることの多かった盟友マネを擁護するのに、もってこいの議論だった。北斎の伝記的事項については、デュレはもっぱらフレデリック・ディキンス（一八三五一九一五）とウィリアム・アンダーソン（一八四二—一九〇〇）という、二人の滞日経験豊かな専門家の知識を受け売りするに留まる。だがデュレは、あくまで北斎が「工業芸術とわれわれの呼ぶ」分野の職匠であることを強調し、版画が民衆絵画であるがゆえに土佐派や狩野派などからは疎んじられていることを確認する。ところが、デュレは日本の北斎軽視には与せず、かえって「大芸術」の範疇からは締め出された不遇ゆえに、北斎を高く評価する。ここにもまた、当時の官展派から唾棄（だ）されていた印象派を擁護するために、北斎が動員された、という欧州での事情が見えてくる。実際、デュレは当時、印象派擁護派の急先鋒（きせんほう）をも

って任じていた。「ヨーロッパ人が北斎をその祖国の芸術家たちの筆頭に位置づけてからはじめて、日本人たちも、彼をひろく偉人のひとりとして認めるようになった」。北斎を日本随一の芸術家と認めるデュレのこの認識は、ルイ・ゴンス（一八四六一九二二）の『日本美術』（一八八三）を経て、世紀末にはエドモン・ド・ゴンクール（一八二—一九六）の遺著『北斎』（二八九六）に引き継がれる。一八九五年七月十六日にパリに立ち寄った米国の画家、ジョン・ラファージュ（一八三五—一九一〇）から、北斎は今でも日本では軽蔑（けいべつ）されていると耳にした文豪は、『北斎』の冒頭で、その才能を開示したのはフランス人だと、豪語した。こうして北斎は、欧州でもっとも有名な日本人芸術家としての地位を確立して行くこととなる。

■■■ 特集／北斎を知る ■■■

編 集 後 記

★現代は情報社会だと言われている。しかし、よく見れば、情報と言われるものの90%はゴミのようなくだららないものでしょう。

★携帯電話やインターネット

が神器のようにあがめられ、もはやそれがないと生きていられないような気になっています。しかし、そんなものがない時代でも、私たちは十分豊かな生活をしていたはず。逆に、今は携帯やインターネットを使った卑劣な犯罪などが横行して、社会を不安にさせているのが現実ではないでしょうか。

★私たちは生活するうえで、本当にこのような膨大な情報を、それも人よりも早く手に入れる必要があるのでしょうか。投資などのマネーゲームには必要かもし

れません。しかし、マネーゲームは、ある特定の個人をお金持ちにしてくれるかもしれないが、その他大勢を不幸にするような気がするのです。かつて、某大

資をしました。その投資は発展途上国に一時的な好景気をもたらしましたが、突然、投資会社は利益を含めすべて引き揚げてしまったのです。途上国の経済はガタガタになり、人々の生活は以前よりも酷いものとなりました。

別に違法なことをやったわけではないのでしたが、マネーゲームの恐ろしさの一端がうかがえます（日本のバブル経済も似たようなものでしょう）。

★今度、『駱駝』という雑誌が小学館から創刊されます。この『駱駝』は、時代に逆行するかのように、隔月刊で出版されます。情報のスピードよりは、人々の生活を豊かにする質を求めるという考え方が基本になっているそうです。隔月刊というのはひとつの冒険で、ひょっとしたら読者に忘れられてしまうかもしれません。それでもなお隔月刊に固執する編集者にエールを送りたいと思いますし、スローライフを具現化する素晴らしい雑誌になることを期待してやまない次第です。

(丘)

本の窓 '05/5月号

二〇〇五年五月一日発行

定価 一〇〇円(本体九五円)

編集人 衣袋 丘

発行人 熊谷玄典

発行所 小学館

〒101-8001 東京都千代田区一ツ橋二の三の一

電話(編集)東京〇三(三三三)五二二二

(販売) ———— (三三三)五七五六

DTP 昭和ブライト

印刷所 図書印刷

★『本の窓』は全国お近くの書店で買い求めください。品切れの場合には、書店を通してご注文ください。

★『本の窓』の年間直接定期購読をご希望の方は、巻末の専用払込用紙にて、お近くの郵便局でお振り込みください。

年間直接定期購読料Ⅱ、〇〇〇円
(年10回/郵送料・消費税込み)

★本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断複写(コピー)、複製(転載)を禁じます。因(日本複写権センター委託出版物)本誌からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(☎〇三・三四〇一・二三八二)にご連絡ください。

★万一、落丁・乱丁などの不良品がございましたら、制作局へお送りください。良品とお取り替えいたします。制作局 ☎〇二(〇三三三)〇八二